

情報社会とコンピュータ		准教授 関川 弘	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目 教職科目	科目ナンバリング	21200106 25310106

1. 授業のねらい・概要

コンピュータは、今日、社会のあらゆる分野に浸透し人々の生活を支えている。コンピュータを正しく利用し、その利便性を享受するためには、コンピュータに関する理解を深めるとともに、情報社会、および情報社会とコンピュータのかかわりを理解する必要がある。本講義では、進化、発展する情報社会に正しく向き合い、情報やコンピュータを効果的に活用する素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、講義後に授業内容に関する質問や、5－6行程度のサマリー提出を求め、その内容を次回講義で取り上げる。また、随時、最新のニュースや記事を用いて最新の動向についても検討する。

3. 授業計画

1. 情報社会とはなにか	9. インターネットの歴史
2. コンピュータの構成①（ハードウェア）	10. 企業とコンピュータ①（POSシステム）
3. コンピュータの構成②（ソフトウェア）	11. 企業とコンピュータ②（eービジネス）
4. コンピュータの構成③（ネットワーク）	12. 情報技術革新①（人工知能）
5. コンピュータの歴史	13. 情報技術革新②（モノのインターネット）
6. コンピュータの普及	14. 最新の英文記事、海外文献抜粋の解説
7. 情報リテラシー	15. まとめ
8. 情報セキュリティ	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の後、回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータに関する理解を深め、関連する新聞記事や書籍を理解できるようになる。また、情報やコンピュータを効果的に利用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）と講義後に提出を求める講義サマリー（30%）、授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについてはどれだけ多く思考したかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要な資料は毎回プリント配布する。教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また、新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。